

第1領域「教育課程編成の理論と実践」

高木 幸子

本科目は、4名の教員（宮園、兵藤、小久保、高木）が担当し、17名の受講者を対象に実施した共通必修科目である。平成28年度は、新潟市立上所小学校を授業会場として実施した。

本科目の目標は、「学校の教育課程を編成・実施・評価・改善し、機能させるための実践的な理論と方法について理解を深め、教育課程及びその編成のあり方を探究する能力と態度を育てること」である。具体的には、次の3点を到達目標として位置づけ進めた。

- ① カリキュラム・マネジメントの基本を理解する。
- ② 確かな学力形成に向けた学習方略、個に応じた指導方法、学習指導と評価の一体化を実現し、教育課程のPDCAサイクルに基づく自己点検・自己評価の方略を身に付ける。
- ③ 地域や学校の特性に応じた教育目標の達成及び教育課題の克服に向けた教育課程を構想・実践するカリキュラム・マネジメント力を身に付ける。

1. 体系的に学びを深めるカリキュラムの実施

本科目では、まず、教育課程の目的や意義、教育改革と教育課程の歴史的変遷、教育課程の構成要素と構成対象についての基本的な理解を図った。また、教育課程の編成・実施・評価・改善を機能させるカリキュラム・マネジメントをどのように構成すればよいかについて、具体事例などを参考に協議し理解を深めた。続いて受講院生は、教育課程編成案の作成に取り組んだ。そこでは、小中連携に関わる組織体制の視点から考える者、一教科に注目して考える者、在籍校のグランドデザインを見直す者、時程に注目する者、地域連携の視点から考える者など、育てたい子どもの姿を描き、各自の課題意識に基づく多様な教育課程案を構想する院生の姿が見られた。構想された教育課程編成案は、実際に機能するために求められる要点を確認し、相互交流して編成案の修正・改善を図っていた。

2. 次年度の改善に向けて

現場での教育課程編成作業の実際を考慮し、院生同士が協働して教育課程編成案を作成する方向で改善を図る。また教育課程編成の理念や編成原理に着目しながら編成作業できるよう工夫していく。